

# 河北新報

2015年(平成27年) 3月11日(水) 河北新報社 〒980-8660 仙台市青葉区五橋1-2-28 www.kahoku.co.jp 「東は、未来」 総合案内 022(211)1111 読者相談室 (211)1447 ご購読申し込みは オオク ミナヨム 0120-09-3746

再生へ心ひとつに

大震災4年 関連記事

双葉 原子力PR看板撤去へ 38



東京電力福島第1原発の立地町で、全町民が避難している福島県双葉町が、原子力PR看板を掲げた町内2カ所のゲートを、老朽化を理由に、撤去する方針を決めた。

南三陸 宗教者が鎮魂の行脚 39



東日本大震災から4年を前に、全国から集まった仏教、キリスト教の宗教者が、宮城県南三陸町の津波被災地を巡行し、宗教を超えて犠牲者の冥福を祈った。

東北ゆかり アスリートからエール 2

中間貯蔵 建設用地、初の売買契約 3

企業再生 商品開発や技術力向上 15

桜色 石巻・釜小で毛糸アート 28

福岡から 山元に黄色いハンカチ 37

写真特集 季節は巡り... 20 21

社説 大震災4年・創造的復興 あの日に戻って考えよう 5

特集 いのちと地域を守る 京都でむすび塾 10~12

声の交差点 5 宮城県内版 28~31 経済 14 15 BS・ラジオ 33 くらし・小説 19 囲碁・将棋 33 文化 22 ワイド東北 36 37 スポーツ 24 25 テレビ 40

東日本大震災死者数 (行方不明者数) 宮城 9539人(1249人) 岩手 4673人(1129人) 福島 1612人(202人) 全国 15891人(2584人) (10日、警察庁発表)

## 東日本大震災きょう4年



仙石線新たな街造る 東松島 工事進む

山を切り崩して伸びるJR仙石線の移設ルート。5月30日の全線再開を目指し急ピッチで工事が進む。東日本大震災から11日、沿線は集団移転先となる団地の工事も進み、新たな街並みの骨格が見えつつある。10日前11時ごろ、東松島市野蒜上から石巻方向を望む。

## 犠牲者1万8475人

巨大地震と津波、東京電力福島第1原発事故に襲われた東日本大震災は、11日で発生から4年を迎える。警察庁によると全国の犠牲者は死者1万5891人、行方不明者2584人(10日現在)の計1万8475人になる。東北の県別の死者は宮城9539人、岩手4673人、福島1612人、青森3人、山形2人。行方不明は宮城1249人、岩手129人、福島202人、青森1人となっている。避難者数は約23万人に上る。各県のまとめでは、避難生活の長期化に伴う体調悪化や自殺などで亡くなった「震災関連死」は福島が最多の1884人(前年比213人増)、宮城910人(同21人増)、岩手450人(同11人増)と続いた。関連死を含めた犠牲者は2万7000人を超える。11日は犠牲者を思い、各地で深い祈りがさげられる。岩手県は野田村と合同で追悼式を開催、福島県は福島市内で追悼復興祈念式を行う。宮城県の村井嘉浩知事は名取市の追悼式に出席する。

## 首相夏までに復興支援策

河北新報社などインタビュー

### 集中期間後の5年間

安倍首相は10日、東 答えた。2015年度までの集中復興期間後の支援に ついて、20年度までの5年間、被災地が求める集中復興期間の延長に賛同し、安倍首相は「来年3月で終わる」と明言。新たな枠組みの策定を明らかにした。

定は「地方負担の在り方を含めて被災地の声に耳を傾け、被災者の心に寄り添いながらしっかりと対応する」と強調した。被災企業を支援するグループ化補助金は「16年度以降も適切に対応する」と継続を検討する意向を表明。東京電力福島第1原発事故で被害を受けた福島県浜通り地方に産業集積するイノベーション・コースト構想は「絵に描いた餅にならぬよう政府一体で実現に取り組み」と意欲を見せた。



質問に答える安倍首相 =10日、首相官邸

### 災害住宅1年で1万戸

安倍首相は10日、官邸で記者会見し、「東日本大震災の被災地の復興に全力を挙げる決意を新たに」と述べた。高層被災者住宅の「心の復興」と雇用面の「なりの復興」に尽力するとした。災害公営住宅を今後1年間で1万戸完成させ、高台も前面に立つ」と語った。

ていかなければ。昨年12月、安倍首相は衆議院の第一声で相馬市の漁港で上げ、経済政策アベノミクスの成果と効用を説いた。「廃炉」「汚染水」に一言も触れず。ある漁業者は「よその世界の話をよった」と振り返った。

被災地が求めるのは、アベノミクス景気のおこぼれではない。絡み合い山積する難問解決への責任ある支援だ。

## いまだ手の届かぬ希望

「作るほじ赤字。誰が担えるのか」。昨年12月の衆院選の最中、石巻市北上町の農家の落胆を聞いた。2011年3月11日の津波から復興事業は進むが、大半の人が営農を諦め、農家は70戸の水田を背負った。だが、昨年産米の米価(概算)が暴落、農業復興の支え手たちは苦境に陥った。被災地の浜でも、売り上げが震災前の「8割に回復した」

という水産加工業者はわずか40%との調査結果が7日の本紙に載った。「工場を再建したが、市場を失い、人も増え落ち込んだ。東京電力福島第1原発事故に伴う「風評」の影響が海に流れ、東電や経済産業省は事実を1年公表しなかつた。」「コソコソ積み重ねた試験操作への信頼を崩された」

と相馬双葉漁協の人々は抗議の意味を含め、待ちかねた春の「コウナゴ漁」を延期した。除染土の黒い袋があらちち野積みになった福島県飯館村。家々や農地の除染は進むが、復田の多難さ、風評への諦め、米価暴落が村民の帰村意欲を揺るがせる。仮設住宅の生活は4年を数え、「帰れない」「帰らない」の葛藤が続く。避難先に新居を求める

「復興をどんどん進めてくれない。絡み合い山積する難問解決への責任ある支援だ。」

### 河北春秋

書棚がひっくり返って雑多な本が波打っているのを片付け始めたのは、震災からだいぶたつてからだった。かすかに見覚えのある本を見つけた。土木学会が出した新書判の『津波から生き残る』その時までには知ってほしいこと。津波の恐ろしさと生き延びる知恵が、震災の1年半前に出たこの小書には、研究者たちの手でほとんどすべて書いてあった。震災後に言い尽くされた迅速な高台避難の重要性はもういふこと。東日本大震災の翌年、徐々にはるるをめぐってゆく早朝の平野に、惨たる光景を見た。思い出すだけで、4年たつても胸の動悸が速さを増す。無数のがれきりと汚泥の中に、大勢の犠牲者が冷たくなって横たわっていた被災地。言語に絶する状況を前に、家族にまだ会えない不安と共に、悔しさで敗北感で立ちすくんだ。土木学会の本のような警告に接しながら、津波襲来の可能性と災害への備えを訴える記事を十分に書けなかった。そのふがいなき、さまざまに思いを白く灰を落とすかぶせ、埋み火のようには生きていく被災者の多くの感慨に違いない。何年たつても、壮絶な体験への心の整理などつくはずもなく、原発の廃炉と被災地の復興という進行形の大震災の中で、今日を迎える。 2015.3.11

Table with weather forecasts for various locations including Sendai, Aomori, and Fukushima. Columns show dates (6, 9, 12, 15, 18, 21, 0時) and temperatures (60, 70, 70, 70, 80, 80, 80, 80, 20, 30).